

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2005-29258
(P2005-29258A)

(43) 公開日 平成17年2月3日(2005.2.3)

(51) Int.Cl.⁷
B 6 5 D 85/50
B 6 5 D 81/22

F I
B 6 5 D 85/50
B 6 5 D 81/22

テーマコード (参考)
3 E 0 3 5
3 E 0 6 7

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2003-424203 (P2003-424203)	(71) 出願人	594002842
(22) 出願日	平成15年12月22日 (2003.12.22)		株式会社シモジマ
(31) 優先権主張番号	特願2003-174872 (P2003-174872)		東京都中央区日本橋馬喰町 1 丁目 7 番 1 9 号
(32) 優先日	平成15年6月19日 (2003.6.19)	(74) 代理人	100085693
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		弁理士 峯 唯夫
		(72) 発明者	横山 庄蔵
			東京都中央区日本橋馬喰町 1 丁目 7 番 1 9 号 株式会社シモジマ内
		F ターム (参考)	3E035 AA20 AB04 AB10 BA04 BB01 BB03 BB06 BC02 BC03 CA02 CA03 3E067 AB90 AC03 BA02A BA03A BA07A BB11A BB14A BC03A BC07A CA07 EC01 EC21 EE01 EE02 EE07 EE09 GA23 GD01 GD09

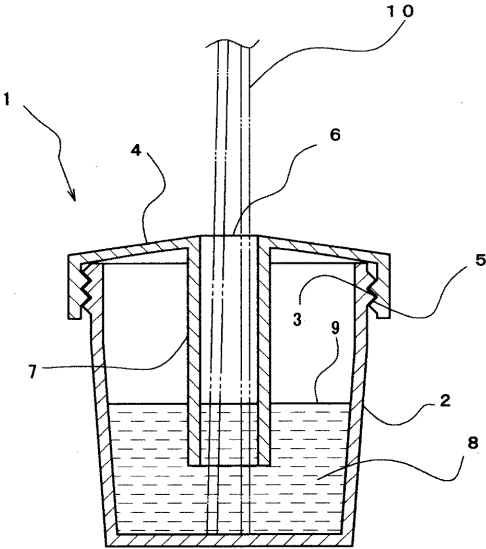
(54) 【発明の名称】 切り花容器

(57) 【要約】

【課題】 切り花の鮮度維持と形状保持を可能にするとともに、転倒に際して水の漏出を少なくした花瓶としても利用できる容器を得ることを課題とする。

【解決手段】 底部と側壁とを有する容器本体 2 と、容器本体 2 に取り付けられる蓋 4 とを備え、蓋 4 の天板には開口部 6 が設けられ、この開口部 6 に両端が開口した筒体 7 が接続され、筒体 7 の一端は容器本体 2 の底部に向けられて切り花容器 1 を構成する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底部と側壁とを有する容器本体と、前記容器本体に取り付けられる蓋とを備え、前記蓋の天板には開口部が設けられ、この開口部に両端が開口した筒体が接続され、前記筒体の一端は前記容器本体の底部に向けられた、切り花容器

【請求項 2】

蓋と筒体とは一体成形とした、請求項 1 記載の切り花容器

【請求項 3】

蓋と筒体とは別体とし、筒体は蓋の開口部に係止した、請求項 1 記載の切り花容器

【請求項 4】

容器本体は開口部が膨大した、請求項 1 記載の切り花容器

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、切り花の容器に係り、特に切り花の搬送に際しての鮮度維持と形状保持に適した切り花容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

切り花の搬送に際しては、切り花を段ボールや発泡スチロールの箱等に詰めているが、水の供給がなく長時間に渡る鮮度維持が困難であり、また搬送の揺れ等で形状の損傷を招くおそれがあった。また搬送後に不要となったこれらの箱については、ゴミの増加を招くばかりでなく、無駄なコストの発生となっていた。

また、鮮度保持のために水を入れた容器に切り花を入れて搬送する場合は、搬送時の揺れなどで容器が転倒し、水がこぼれ出すという難点もあった。

【0003】

これらの問題点を解消すべく撥水性の厚紙で形成された容器と容器蓋からなる花卉輸送箱は、必要最小限の水を容器に入れ、切り花の鮮度保持を図るとともに切り花を支持するための切り込みを蓋中央部に設けている。

【特許文献 1】特開平 6-56186

【0004】

しかし、搬送中の切り花の安定保持はできるものの、容器への出し入れに際してはこの切り込みにより花や茎を損傷するおそれがある。また厚紙自体は低コストであるものの、搬送後に容器を花瓶等として利用するには耐久性や体裁に難点があり、結局発生するゴミの解消という点についても難点がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

この発明は、切り花の鮮度維持と形状保持を可能にするとともに、転倒に際して水の漏出を少なくした花瓶としても利用できる容器を提供すること、そして搬送用の容器をそのまま販売用の容器として使用でき、購入者はそのまま花瓶として利用することも可能とすることを課題とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この発明の切り花容器は、底部と側壁とを有する容器本体と、前記容器本体に取り付けられる蓋とを備え、前記蓋の天板には開口部が設けられ、この開口部に両端が開口した筒体が接続され、前記筒体の一端は前記容器本体の底部に向けて切り花容器を構成する（請求項 1）。

容器本体と蓋とは着脱可能であることが好ましい。容器本体から蓋を取り外せば容器内部の清掃がしやすいからである。例えば、容器本体の端部と蓋の端部とに相互に係合し合う突起部を設けて着脱可能したり、容器本体の端部と蓋の端部とにそれぞれ螺合し合うね

10

20

30

40

50

じ切り部を設けて着脱可能とする構造が考えられる。なお、容器本体に蓋を固定したり、容器本体と蓋とを一体に成形してもよい。

【0007】

前記蓋と筒体とは一体成形とする構成（請求項2）、蓋と筒体とは別体とし、筒体を蓋の開口部に係止させる構成（請求項3）の何れでもよい。

また、容器本体の開口部は膨大させると、転倒時にこの膨大部に水がたまり、流出が防げるので好ましい（請求項4）。

【発明の効果】

【0008】

この発明の切り花容器によれば、容器内に水を注入して搬送できるので切り花の鮮度維持が図られ、筒体により切り花の茎の形状保持も可能となる。 10

さらに容器本体に蓋が設けてあるので、切り花容器が転倒しても注入した水が外部へ漏出しにくい。

またそのまま販売できるので小売店では小分け作業が不要となる。そしてこの容器はそのまま花瓶として使用できるので、購入者は持ち帰ってそのまま、別途花瓶を用意することなく、切り花を飾ることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下に、最良の形態としての実施例を示す。

【実施例1】

【0010】

図1はこの発明に係る切り花容器の実施例1を示す断面図である。

【0011】

切り花容器1の容器本体2は、底部と側壁とを有する円筒型の容器であり、側壁の上部外周面はねじ切り3がされている。蓋4は天板と側壁とを有する円筒型であり、側壁の内周面はねじきり5がされており、このねじきり5と容器本体2のねじ切り3とにより蓋4が容器本体2に螺着されている。すなわち容器本体2と蓋4とは着脱可能となっている。

蓋4の天板には円形の開口部6が設けられている。そして両端が開いた筒体7の先端部が、開口部6の容器本体2側に、蓋4と筒体7との一体成形として接続している。そのため筒体7の他端は容器本体2の底部に向けられている。 30

【0012】

次に切り花容器1の使用方法を説明する。蓋4の天板の開口部6から筒体7内に水8を注ぎ、又は蓋をはずして水8を容器本体2の中に注入する。水面9は容器本体2の中間付近の深さとし、筒体7の内部にも水を入り込ませる。注入する水の量は搬送、載置の用途に応じ、また気温、切り花の種類等で決める。次いで、切り花の茎10を蓋4の天板の開口部6から挿入する。茎10は、筒体7内を通り、その先端が容器本体2の底部に至り、垂直に保持される。このとき切り花の茎10は筒体7の内周面に支えられることとなる。

【0013】

このように水8を注入した切り花容器1に、切り花の茎10を挿入して搬送したときは、切り花に水8を供給できるので鮮度を維持できるとともに、搬送の際の揺れ等があっても茎10は筒体7の内周面に支えられるので損傷しにくくなる。また切り花容器1が転倒したときも容器本体2の内部に注入された水8は、蓋4があるため外部に漏出しにくい（図2参照）。特に、区画を設けた専用のトレーを用意し、各区画に切り花容器を収納するようにすれば、搬送中に倒れるおそれは解消される。 40

また、切り花容器1は搬送後も花瓶としてそのまま利用することができる。花瓶として利用するために容器本体2の外表面は、彩色、印刷又は装飾を施したフィルムで被覆しておくことが好ましい。

【実施例2】

【0014】

図3は、この発明に係る切り花容器の実施例2を示す断面図である。この実施例1と異 50

なる部分は、蓋 4 と筒体 7 とが着脱可能に係止していることである。よって、実施例 1 と異なる部分を中心に説明する。なお実施例 1 と同一名称のものは同一の符号を記してある。

【0015】

蓋 4 の天板中央部に設けられた開口部 6 には外部に向けて、両端開口の円筒型の突起部 11 が一体成形で設けられ、突起部 11 の側壁外周にはねじ切り 12 がされている。

筒体 7 は両端が開口した円筒であり、上端部に外向きの鏝 13 が設けてある。この筒体 7 が、前記蓋 4 の開口部 6 から容器本体 2 の内部に挿入され、前記鏝 13 が突起部 11 に当接し、筒体 7 の下端は容器本体 2 の底部に至っている。

【0016】

前記突起部 11 には前記筒体の鏝 13 を挟み込み固定する止め具 14 が取り付けられている。前記止め具 14 は、上部に内鏝 15 を有する円筒型で、側壁の内周面にはねじ切り 16 がなされており、ねじ切り 12 とねじ切り 16 とにより止め具 14 が突起部 11 に螺着されている。

【0017】

このように蓋 4 と筒体 7 とが着脱可能に取り付けることにより、蓋 4 と筒体 7 とが一体成形が困難な場合でも止め具 14 を介して筒体 7 を取り付けることができる。

前記突起部 11 と止め具 14 とは、突起を設けて係合するものでもよく、またパッキンを介して着脱可能に密接するものでもよい。

【実施例 3】

【0018】

図 4 は、この発明に係る切り花容器の実施例 3 を示す断面図である。この実施例 1 と異なる部分は、容器本体 2 と蓋 4 とが突起を設けて係合していること、そして容器本体 2 の開口部を膨大させて膨大部 17 を形成した点である。

【0019】

容器本体 2 の上部は膨大部 17 としてあり、側壁の上端外周に突起部 18 が設けてある。他方、蓋 4 の下端部内周に突起部 19 が設けてあり、前記突起部 18 と突起部 19 とは水密に係止するようにしてある。容器本体 2 と蓋 4 とは、材質の弾性を利用し突起部 18 が突起部 19 を乗り越えて係止し、逆の動作で分離される。このように容器本体 2 と蓋 4 とは簡単な構造と動作で着脱可能とすることができる。

【0020】

この実施例においては、容器本体に膨大部 17 を設けたので、転倒時に水が膨大部にたまることとなり、水の流出が回避できる（図 5 参照）。

【実施例 4】

【0021】

図 6 は、この発明に係る切り花容器の実施例 4 を示す断面図である。この実施例 3 と異なる部分は、蓋 4 と筒体 7 とを着脱可能に係止していることである。よって実施例 3 と異なる部分を中心に説明する。なお実施例 1 から 3 と同一名称のものは同一の符号を記してある。

【0022】

蓋 4 の天板に設けられた開口部 6 には容器本体 2 の底部側に折り込んだ折り込み部 20 が開口軸に向けて斜めに周設してある。筒体 7 は下方を小径としたテーパ状の円筒であり、小径の開口端を容器本体の底部に向け、大径の開口端を蓋 4 から上部に突出して開口部 6 に挿入されている。筒体 7 の側壁外周面は突起部 19 に当接し係止している。このように蓋 2 と筒体 7 とを別々に製造できるので成形が容易となる。また筒体 7 をテーパ状としたので、筒体 7 を蓋 2 に着脱するのが容易であり、かつ水密性が高くなる。更に上部が大径で下部が小径であるから、切り花を筒体に差し込みやすく、下部では茎がしっかりと保持されるので切り花の形状保持に優れている。

【0023】

この発明において、切り花容器 1 の容器本体 2、蓋 4、筒体 7 及び止め具 14 の材質は

10

20

30

40

50

特に限定するものでない。成形上合成樹脂が好ましいが、例えばアルミニウム、ステンレス、スチール等の金属でもよい。また搬送に適した強度と花瓶としての体裁を備えていれば、撥水加工した厚紙であってもよい。

また上記実施例 1 から 4 では、容器本体 2 と蓋 4 とをパッキンを介して水密を保持して嵌装する構造でもよい。要は水がこぼれにくく、不慮の事故で転倒しても蓋 4 が容器本体 2 からはずれない構造であればよい。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図 1】 この発明の実施例 1 の断面図である。

【図 2】 同じく転倒時の断面図である。

【図 3】 この発明の実施例 2 の断面図である。

【図 4】 この発明の実施例 3 の断面図である。

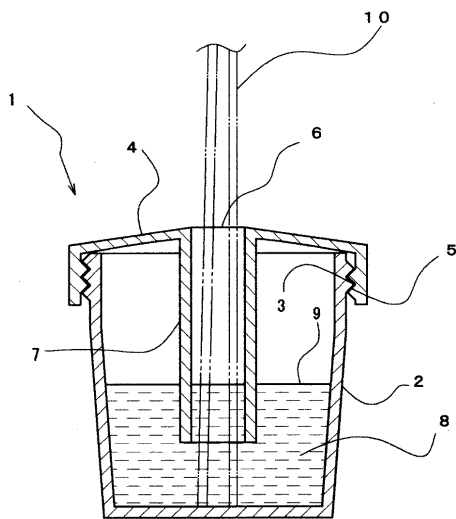
【図 5】 同じく転倒時の断面図である。

【図 6】 この発明の実施例 4 の断面図である。 1 切り花容器 2 容器本体

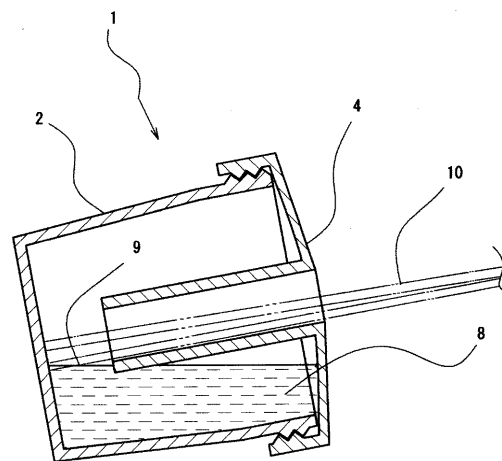
4 蓋 7 筒体 11 突起部 14 止め具

10

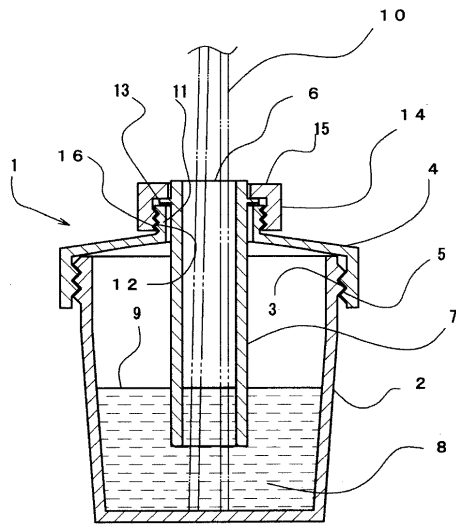
【図 1】



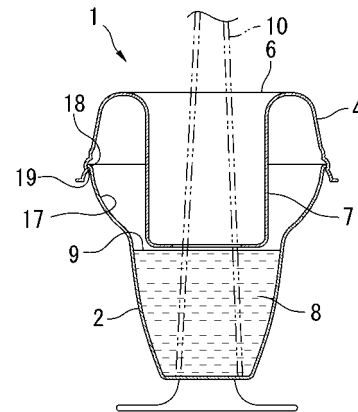
【図 2】



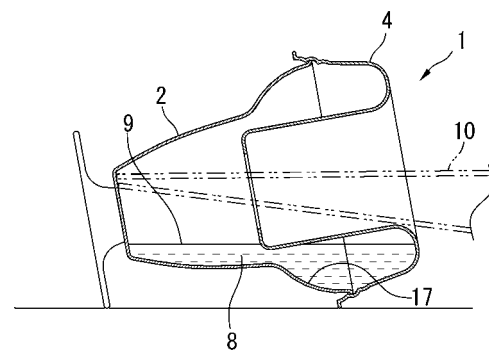
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

